

発見!

熊野町の「工工」ところ。

シリーズ
第15回

全国各地にある名所や名物、もちろん熊野町にもたくさんあります。そんな町内に埋もれた、さまざまなモノ・場所などの「工工ところ」を紹介するコーナーです。
今回は「熊野第三小学校の校歌」にまつわるレポートです。

“そのとき”校歌は誕生した! ~vol.5 熊野第三小学校校歌~

これは、体育館正面に掲げられている珍しい木彫りの校歌である。児童とPTAが卒業記念に1文字ずつ作成したものだそうだ。



木彫りの校歌

こ熊野第三小学校は、昭和44年に開校し、来年でちょうど創立40年を迎えようとしている。公民館や郵便局など、さまざまな施設を持つ熊野団地造成と共に出来上がったこの学校は、当時では珍しい広島県の新設モデル校であったという。

校長室に飾られた歴代校長の写真を見上げながら「作詞を担当されたのは、初代校長・亀島清先生ですよ」と、近藤博文校長(58才)。調べてくださると、どうやら初代亀島校長は、海田町のご自宅でお元氣にお過ごしのようにある。さっそく海田町の初代亀島校長をお訪ねした。

案内された心地よい和室の鴨居には、大きな額に入った校歌がドーンと飾ら

れている。なんともハツラツとした笑顔で迎えてくださる初代亀島校長は、聞けば、91歳!!しかも、これから本を作るため、毎日執筆されているとおっしゃる。ふむふむ、これが若さの秘訣なのだ…。すばらしく!!



初代校長 亀島清先生

「それでは順をお話しますね」と、初代亀島校長は、校歌を作られた思いやエピソードをお話くださる。昭和44年3月より赴任して、定年を迎えられる昭和53年までの9年間勤められたそうである。開校当初は、まだ校舎が完成しておらず、第一小学校の体育館などお借りして、児童達と勉強したそう。その後、校舎が一部出来上がると、第一小学校から第三小学校まで、みんなで机やイスの大移動を行ったことも。夏休みには、当時はまだドロドロで足場の悪かった運動場を、全保護者が整備したというから驚きだ。

そんな中で、校歌にまつわるエピソードは起こった。昭和45年の社会見学、バスの中のこと。ひとしきりみんな歌を歌い終わった頃、バスガイド

さんが「さく今度はみなさんの学校の校歌を聞かせてください」と。すると、一人の男子が「ボク達まだ校歌ないの・・・」と寂しそうに言ったそう。同じバスに乗っていた亀島校長は、その子の言葉にジーンときて、まさに“そのとき”校歌を作ろう!と決めたとおっしゃる。元来、短歌や俳句がお好きな亀島校長は、その晩帰って、なんと!一晩で作詞されたそう。

こうして出来上がった校歌には、1番に、学校が存在する貴船の風景を詠み、2番には、校訓“自主創造”を盛り込んだ生きざまである処世観を、そして3番では、価値実現の主体は人間であるということ、究極の価値観が詠まれている。

一方で、校歌の作曲は、当時の教頭・奥田博先生が担当されている。音楽がご専門であった奥田教頭は、亀島校長のまさに相棒として、すばらしいコンビネーションを築かれたようだ。

さて、いよいよ作られた校歌を披露する 때가 やつてきた。時は、昭和46年3月25日卒業式。折りしも、「ボク達まだ校歌ないの・・・」と寂しそうに言った児童の学年の卒業式となったそうである。

取材 伊藤真由美